農家ルポ　(有)森ファームサービス（茨城県古河市）

楽しみ提供する“ふる里”に

体験イベント、レストラン、直売店など取組多彩

茨城県古河市の閑静な森の中に、季節の花に彩られた農場とレストラン、直売店が佇む。「農業は人の命を育む生命産業」と、有機農産物の生産や加工、販売などを手がける(有)森ファームサービスだ。オーガニックの米やそば・野菜を生産し、ナチュラルフード店「里山の森ぽっぽ」で直売。同店では、自家製粉したそば粉や手作りみそ、どぶろくなども人気だ。また、自家製そばとオーガニック野菜を活用したレストラン「ゆるりの森」や、季節ごとの収穫・農業体験イベントも展開し、近隣住民をはじめ、全国から多くの人が足を運ぶ。「皆様のふる里になりたい」を経営理念に、農業を通して〝ふる里心〟に響くものを創り続ける、同社の取り組みを取材した。

環境にやさしい農業を実践

110haの規模で農業を営む森ファームサービス（森雅美社長・茨城県古河市上片田1224-2）は、オーガニックの米やそば、野菜の生産・加工・直売をはじめ、農産物の作業請負、農業体験などを展開している。社員数は21名、20代の若手スタッフが多く、活気のある職場だ。

農業生産では、無農薬栽培・低農薬栽培を中心に環境にやさしい農業に取り組んでいる。有機JAS（無農薬アイガモ農法）・県特別栽培（低農薬）のお米「スプリングライス」、オーガニック野菜やそばなどを栽培。パレスホテルと提携して、ホテルから出た生ゴミをホテル内で堆肥化し、それを農業に活用して、農作物を再び食生活の場に戻す「ECA循環型リサイクル農業」にも取り組み、持続的な農業を実践、農林水産大臣賞を受賞している。

また、そばはブランドの「常陸秋そば」が好評で、全国でこだわりを持つ約300店の蕎麦屋と取引している。ナチュラルフードのお店「里山の森ぽっぽ」には、季節の野菜や「スプリングライス」、「常陸秋そば」、自家焙煎のそば茶・黒豆茶など、パッケージからすべて自社で製造したオリジナルの自然食品が数多く並んでいる。ネット販売も好調だ。

（左）豊かな森と季節の花に囲まれた農場。（右）農場入口の「里山の森ぽっぽ」の看板前で、田植え体験に訪れた幼稚園の子どもたちが記念撮影

（左上から時計回りに）森に囲まれたレストラン「ゆるりの森」外観。モダンな雰囲気の内観。旬の野菜がたっぷり味わえる春限定ランチセット「春野菜のペペロンチーノ」。レストラン入口で、森社長（中央左）とスタッフら

農場隣接のレストラン「ゆるりの森」は、森の中のコテージのようなモダンな佇まい。野菜ソムリエによる季節ごとの料理やスイーツを楽しむ女性たちでにぎわう。食材のそばの実やオーガニック野菜の多くは自社農園産。こだわりの手打ちそばと、たっぷりの採れたて野菜を、窓に広がる田園風景とともに味わえる。そばは定番のせいろのほか、ペペロンチーノなどの限定創作メニューも人気だという。

規模拡大し地域の担い手へ

森社長にこれまでの経緯を伺うと、氏の就農は約40年前、高校卒業後に、両親の農業を引き継いだのが始まりだという。20歳の時に農業に1本化したが「当初はとても儲からず食べられなかった」ため、規模拡大を図り、休耕地を借りるように。「基盤整備が遅れていて、農地の条件が悪い地域だった」のが福となし、農地が次第に集まり始め、さらに農業サービスをPRしたところ、地域から受託作業が舞い込むようになった。

そして、新しい取り組みとして食にこだわる顧客への直売をスタート。田園調布など都市部に住んでいる顧客が折々に、子ども連れで農場に来るのをみて、「ふる里を作りたい」「田舎の親戚のように、お付き合いをしていけたら」と感じるようになる。その思いから「皆さんのふる里になりたい」を経営理念に、1998年に法人化した。

食の安全・安心を実現する

森社長は、「農業はただ生産する場ではない。食

の安全・安心の実現とは、思想を持った食糧を、安定供給するシステムを作ること」と語る。「農業は環境破壊産業なのだから、環境を持続するための意識・思想が必要だ」と、有機JAS及び県の特別栽培の認証を取得。また、顧客安定のためには信頼が必要だと、同社を拠点にイベントや食事など楽しみの創造を行い、顧客との接点を増やしていった。

「人が癒されるのは、自然に触れたとき。農業は自然と風景に触れる場所であり、生命産業なんです。農場を拠点に、自然に触れながら、遊ぶ・食べる・体験するなどの楽しみを提供する。顧客が安定すれば経営が安定する。経営が安定すれば、安心・安全を供給し続けるビジョンが描ける」(森社長)。

イベントで農業の楽しみを創造

現在、森ファームでは、5月のれんげ祭りや9月の新米収穫祭、達磨・高橋邦弘氏を迎えてのそば祭り、12月の餅つき大会、各種収穫体験など、1年を通してたくさんの農業体験イベントが行われている。どろんこレースに宝探し、田植えや種まき体験などが楽しめる人気のれんげ祭りは、今年で22回目となった。リピーターのお客様が多いという。

イベントは全て同社社員が企画・準備・運営しており、同社社員は「ネイチャーゲームリーダー」や「そば打ち段位」、「食品衛生責任者」など数々の資格を会社の補助で取得している。「うちのスタッフは農作業や事務だけでなく、インストラクターなどなんでもこなします。頭を使って工夫しなければならないから、人材育成にはお金と手間をかけている」と森社長は語る。社長自ら社内の5カ年計画を作成・公表し、それを実現するために、社内で年間目標や経営計画、週間計画、個人目標を立てて、月に1度は進捗状況をチェックし合う。見えない未来を全員で見えるようにしていくことが重要という。

コミュニティ拠点となり地域へ貢献

「TPPが世間で騒がれていますが、欧米の農業とは基盤が違うので、生産性や量では競争にはなりません。しかし、個性の競争ならできる。便利な技術が発達した時代だからこそ、面倒と思われがちな不便さの中からやりがいや達成感・喜びを見いだし、そこから個性が生み出せると考えます。個性は手間をかけて磨いていくものです。三方よし（売り手良し、買い手良し、世間良し）の精神で、地域の拠点になってコミュニティを作り、地域貢献もしていけたら」と森社長は語る。

森社長の言葉通り、取材当日も、数多くの地域住民が森ファームを訪れていた。

レストランを訪れた女性たちは、田園風景を眺めながらランチに舌鼓を打ち、ゆるりとした時間を過ごしている。

また、当日はちょうど、近くの幼稚園の子どもたちが田植え体験に訪れていた。裸足になった子どもたちは、田んぼに入り、稲の苗をしっかりと握りながら、泥を踏みしめて前に進み、きゃあきゃ

（左）明るく落ち着いた雰囲気の自然食品店「里山の森ぽっぽ」。（右）人気の「スプリングライス」や旬の有機野菜

（左）田植え体験を楽しむ子どもたち。（右）自然食品店「里山の森ぽっぽ」前で、スタッフの森はる菜さん

あと大はしゃぎ。「ミミズがいる！」「見て見て！泥んこになった！」と口々に言いながら、スタッフの指示に沿って、〝お米の赤ちゃん〟である苗を丁寧に手で植えていった。終わり間際には「すごく楽しかった」「帰りたくない」など、名残りを惜しむ声も。5月は幼稚園などの田植え体験が多く、東京のインターナショナルスクールも、毎年田植え体験に来るという。

また、子どもたちには、アイガモ農法で活躍しているアイガモや、農場で飼育されているウサギも大人気。時おり近所の親子が遊びに来て、ウサギを見たり、花摘みをしたりして楽しんでいるという。その他、地域の住民が集まれるようにと、立ち上げた「花見の会」も好評だ。

お客様の声を直に聞けるのが楽しい

森ファームサービスで実際に働いているスタッフの方にも話を伺った。

森はる菜さんは、勤続9年目。主に、事務や接客、販促チラシや商品パッケージのデザインなどに従事しているが、田植え体験に訪れたお客様の対応をすることも。「事務だけでなく、いろんなことにチャレンジできる」職場だと語る。

「お客様と直接お話しできるのが楽しいですね。体験イベントに訪れる家族連れの方で、来るたびにお子さんが大きくなっていくのをみると、親戚のように嬉しい」とはる菜さんは笑う。レストラン「ゆるりの森」では、はる菜さんが作成した陶芸の器が展示・販売されているが、そうした自分の興味や意見などを活かして、商品などの形にできるのも面白いという。自分の頭で考えて、創意工夫できる環境が整う同社には、今年も新入社員が2名入り、意欲的に業務に取り組んでいる。

社員の個性活かしてふる里を提供

社員それぞれの個性が光る森ファームは、これからも、地域住民や全国の顧客に楽しみとふる里を提供し続けていく。

スキガラの農作業機

スーパー3畦成形機
PH-T311
低馬力
高能率
●セルフ調整機構により規定のうねが早く出来、土の土押し現象が軽減。

スーパー小畦マルチ
JR-911・JR-M911
コンパクト
高性能
●甘藷・馬鈴薯・ソ菜・花卉等の丸うねづくりとマルチ作業が同時にできます。

スーパーエイブル平高マルチ
PH-MR141・PH-MR171
高機能
高耐久
●畑作・水田での転作・裏作の野菜移植に適した平高畦づくりとマルチ作業。

鋤柄農機株式会社
〒444-0943 愛知県岡崎市矢作町字西林寺38
TEL.(0564)31-2107(代) FAX.(0564)33-1171
URL=http://www.sukigara.co.jp/

農経新報

Nokei-Shimpo

2017
6/30
夏号

特別企画

自動化が進化するロボット農機・スマート農業

特　集

6次産業化で実現―儲かる農業

G M　軌道に乗り伸びる木質バイオマスと林業